

福田泰次氏

山のアルバム ②

昭和11~15年

(高松)

北アルプスノ思出

昭和11年冬 穂高 穂沢小屋生活

(冬 穂高連峰 / 登攀)

189-11-5- 森松 福田 伊藤 三



前穂北尾根

昭和11年冬 気合ツ山仲間3人ノ積雪期穂高連峰登攀ノ旨指シテ
穂沢小屋ニ入ル 長期偵察ノ結果明神東尾根登攀カニ生活ノ第一日
標4747

— 日 誌 —

12月25日 松本(AM8:00) ^{日動車} 沢渡(AM11:30~PM1:00) — 中湯(RM500)

12月26日 中湯(AM8:00) — 上高地(12:30~1:30) — 穂沢(RM400)

12月27日 涸沢谷 偵察行

穂沢(AM7:30) — 穂尾岩小屋(AM9:30) — 沢平(12:00~PM2:30)
— 穂沢(RM400)

明神東尾根登攀ノ前川手廻ヘニ北穂高ニ登ルヘク涸沢谷
ニ偵察ニ入ル 本身ハ雪ガツク沢通リ歩行不可能ニシテ更道ヲ
所始バ沢ノ時間ヲ全ク北穂ニ北穂高沢ノ何ヤ左側ノ尾根ヲ
登攀スル事ヲ

12月28日 休養



冬の上高地ホテルの「アヒール」屋



上高地の「アヒール」屋

北穂頂上ノ眺メ



笠ヶ岳方面ヲ望ム



奥穂、ジヤンタルムヲ望ム

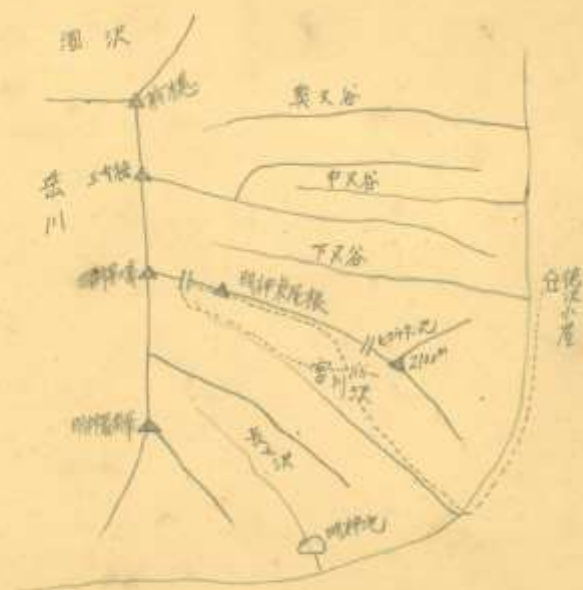


槍ヶ岳ヲ望ム



德沢小屋附近到下又谷の望山

本生活1第一目標點 明神索尾根分岐線 = 7440ft
 活比古河



明神索尾根附近略図



宮川沢ニ偵察ニ入リテ取ル

12月31日 雪 17°

昭和12年1月10日 雪 17°

〃 1月2日 明神東尾根 偵察

宮川沢ヲサカノボリ明神東尾根ヲ偵察スル

取付ハヒツケル池上部ノRidgeト決メ

Ridgeニ出ルハ簡単ニ尾根通ニPeakニ出ラレ

ルモト見当ヲツケテ(1)偵察ハ全ク失敗アリ翌日

登攀ニ際シ尾根ノ積雪状況極ク悪ク豫想外

ニ時間ヲ食ツタリマシタ



川神尾根登攀中、数々
深産ト忌枝斜トキマナ



明神尾根登攀中、明神ニ至、松ヲ望ム
9日ニ明神トテ美シカ

1月4日

鬼出、髭高ヲ仁テ、猪沢ヲ渡ルニ松ノ下ヘトスキーヲ飛ハス

大山北壁登攀 (昭和12年2月)

同行 山口 根也 武田 茂松 伊藤 丈

由大山日本海側より登山し高度を以て下る千二百メートル北壁を積雪深厚なる
ル登攀ハ数回試み未だ満足ハ懸案アリ本年度モ大忙し張切ヲ以て大山ニ向テ

2月19日

西院線 大山口駅下車 海岸線ヨリスキーヲ滑リシ 大山寺ニ向テ單獨ニ道ノ4時前
ニ至リ歩行ハ全ク仰テハ難シキ所ヲ大山寺即落ニ達ス



大山寺へ行く前の一瞥



一休息



小生 茂松 武田





大仙寺宿舎寂光院ニテ
明日北の登攀ヲ控メ修験計畫ニ忙シキ

2月20日 北壁攻陣1日



大仙寺部落列スキヲ滑シテ東谷ニ向フ



滑リ森林帯ヲ抜ケ本谷ニ入ルヲ頃3リ
天候悪化ノ兆現ル



行く北壁=直面スヤ如何ナルルートヲ取ルベキヤ



有谷ノドンスリ北壁直下ニテスキーヤーホトスルスキーヲ脱ギワゴント穿キカヘル
 行くPachulヲ打チツイ北ノ壁ニ挑戦スレバ



深雪ニヤマサレワザニテ歩キ一歩雪壁ヲ攀ス



天候何レ悪虎ノ極メ吹雪ノ最一寸先モ見ヘズ
頂上ヘク偉大ナル努力ヲ以テ登攀セリ 我等ニテハ此ノ
最難ハルヲ登攀シテ



壁は危く急傾斜トナリ直登シ得ズ
危険ナルトラスヲ敢行セントス
Top 1 進行ニ利シ Second, last ハ石壁ナル Delay
ヲ有シ 雪崩ノ発生ニ利シ甚大ナル注意ヲ拂フ
Pickel トリテ Seilニ対シ 絶大ナル信頼ヲ具ス
One step < Top 1 進行ニ行ク

道ニトラスナルナル
2 トラスナルナル 頂ニ由リテ直登
セントスルニ 敢テ Overhang 1 懸
如クトモ 懸ニ得ズ 氷壁ニ Step
ヲ有シ 何回セ 顔面ニ 攻撃ナル
毛髪ニ 吹きテ 頂上ハス 月 1 歩ニ
アルカ 如クトモ 何カ 吹テ 残念
ナリ 雨降リ 雪 7 固ク 期シテ 氷壁ニ
ス



スキーニ引テ 返セル 敗残ノ我々 Seil ヲツテ Pickel ヲ 2 個 新道ニ
ツク 吹雪ハ 敗残ノ我々ヲ 追ヒテ 去リ 怪威ヲ 振ヒ 出シ

新道ハ 氷子ヲ 足テ 新道ス

昭和3年春 色馬岳南侯生活

杓子岳及鐘ヶ岳東壁ヲ目指シテ

同行者 鍾山 北山 武田 赤松 伊藤 森本 橋本

自馬杓子、鐘、不歸、唐松、連峯ノ登攀根據地トシ、南侯路電所小屋ニハ
我々甲南山岳部グルツバニ取ツテハ Home ground トモ稱スベキ所ニテ此処數年來
春ハ此ハ此ノ小屋ヲ訪シテ来タリテアツ 然ニナガラ杓子岳東ノ壁ノ登攀、コレハ
取り残サレ最後ノ問題トシ本年應 挑ミ越サレタリテアツ
アツタマハ小日向山 又チ岩ニ Advance Camp (雪中露營)ヲ設ケ、以テ又ガ
登攀ヲ敢行セシメタ

小日向山到 鐘、杓子ヲ望ム



鐘ヶ岳 杓子東壁 杓子尾根
南山稜 北山稜 杓子沢

杓子岳頂上到北山ト垂直ノ角度ニテ杓子沢ニ落テ公メル東ノ壁
ニガ登攀ノ爲ニハ全ク筋力ヲ要スルタリテアツ

3月19日 四ノ谷判ニ股ヲ至テ南俣小屋ニ入ル

ニ股ヨリ白馬連峰ヲ望ム



八方尾根 不歸



鐘 樺 白馬

南俣小屋ヨリ不歸連峰ヲ望ム

ヒマヤラ山麓ハ不歸連峰ノ雪ノ峯ニ 南俣小屋ヨリ眺メハ 全ク日高カシカニテホシ

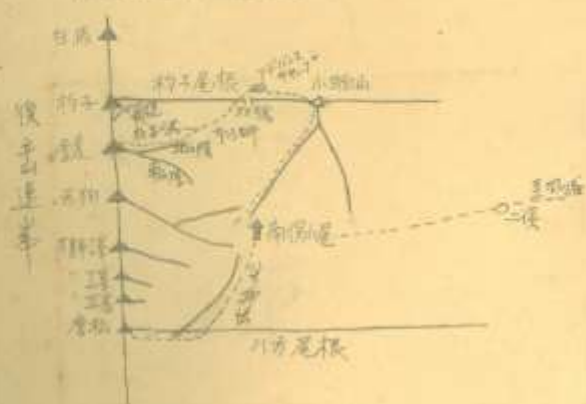


八方尾根 扇形山 柳井 工事
唐松沢

3/19 1/11/11/11 登攀ニ付テハ
聲ノ絶大ナル努力ヲ要スルコト



南俣小屋附近概念図



3月20~22日 南俣小屋 - 双子岩 キヤンパ
Transport (荷物運搬)

トバズキヤンパ - 荷物運搬中 / 小日向山 附近



小日向山 附近の杓子鍾子壁



前進 (camp 設置) 為、資材、材料、Supporting member
(補助隊員) = 3人運搬中、材料登攀、1人ニカク
Supporting member attaching member (攻め隊員)
ヲ援助シ、北ガ目的定造、路カスル、一ツカキ、
登攀ハ決シテ個人的 play、ハ小日向山 附近ニカク
図ヲ、新バ、カキ、結果、ナリ、ア

小日向山 附近ニテ小生



杓子登攀目標カ、杓子東壁
カサ、20年、奥深ク、崖然トシ、
北ニ主、作ル

3月21日 遠=前進Camp 新小田白山 双葉岩に設置ス

我々/前進根拠地トナリタル カマボコ型天幕



風雨・対峙強度ヲ予知セリ我々ニ到リテ設計言試作サレタル天幕ヲアル
 プルムハ藤内林ニテ構築サレテ居リ Well^{井戸}ハ^{井戸}クレ^{井戸}ニアル地ト白金ノニ
 屯^陣限^界ニ到リ出ル、コノサカ^山ノ住居ニテ我々ハ2000米ヲ越ヘル山ヲ越
 シ氷雪下ニ敷度ヲ選スアル

Camp 設置ヲ終ヘタル我々



カマボコ山口武田 剛生/4名カ^カ隊隊員^ニ同ジCampニ
 入リ

camp地ヨリ杓子鍾尾岳ヲ望ム



此ノ位置目標ナル杓子東壁ハ鍾尾根ハ巖然トシ我々ノ眼前
ニ北へ立テ杓子ハナカ 水ノ直道角ヲ以テセヨ平ニ落込ム杓子ノ
麓ハ此ノrouteヲ望ムベキヤ果シテ勝算アリヤ我々ノ日ヨリ Ransom =
此ノ詳細ナルroute 觀察ヲ開始シテ

テント内ノ我々



小生 山口 徳 武田

蒙古ノ着ル様ナ大ノ毛皮ヲ以テ製シ羽毛ノ Sleeping Bag
ニモテ此ニ 寒冷ト闘フ我々

ラジオノ小ナテント内ニテ Radio (カシムジロ) ヲ使用スル事ニヨリ
結構一流ル規模ノ料理ガ調理出来ルデアル

3月23日(晴) 杓子岳東壁登攀

Party 山口 福田 A.M.400 出発 AM8:00 サイニングロード 取付 (A) A.M.9:30
 サイニングロード 和歌山線 = 出ス (B) 10:30 小テラス = テ小 越 (C)
 11:30 手積 = 出ル PM10:40 ~ 1:30 頂上 PM1:40 ~ 3:00 杓子沢 Col
 PM5:00 テント着 気温 -6°C at AM4:00 (E)

杓子全山



杓子東壁上半部



如左 = 急峻な氷壁に力をつけて 1 度 = On top <
 偉大な努力 / 足跡を印して = 登頂した喜び / 7/7/77

17 柳子岳 東壁
我が登ったルートは今日で云う
D. Ridgeで出よう

柳子東壁と鍾光山陵の所

一 警 記 一



10時30分アイゼンを付けた出発。11時00分鍾光
山頂に到着。雪が厚く、バネートル。柳子沢に登り
ツル。斜面は加速度的に急になり、頂上＝ネイク
サル根＝柳子壁が吾々を取巻いて、スカイライン
＝ハ大々雪庇が暖かいコトスカノ、橋＝不気味
＝連ラナリキル。頂上ノ左側に発生シテ、右尾
根＝取付ノ事＝ズレ、コノ支尾根ハ、ホトト垂直角ヲ
以テ、柳子沢＝落込テ、尾リスヘ、取付ハ昨日同様で、開
題＝シテ、タノデアルが来テ、ミル思ヒ、外、危峻な岩上
ニハ、氷＝落氷ガ強リ、ツリキル。新7分4＝一、狀ノルセ
ヲ見シ、取付7(A)全ク垂直ノ、モノハ、氷ノ4＝

＝7、B、C、D、E、F、G、H、I、J、K、L、M、N、O、P、Q、R、S、T、U、V、W、X、Y、Z、AA、AB、AC、AD、AE、AF、AG、AH、AI、AJ、AK、AL、AM、AN、AO、AP、AQ、AR、AS、AT、AU、AV、AW、AX、AY、AZ、BA、BB、BC、BD、BE、BF、BG、BH、BI、BJ、BK、BL、BM、BN、BO、BP、BQ、BR、BS、BT、BU、BV、BW、BX、BY、BZ、CA、CB、CC、CD、CE、CF、CG、CH、CI、CJ、CK、CL、CM、CN、CO、CP、CQ、CR、CS、CT、CU、CV、CW、CX、CY、CZ、DA、DB、DC、DD、DE、DF、DG、DH、DI、DJ、DK、DL、DM、DN、DO、DP、DQ、DR、DS、DT、DU、DV、DW、DX、DY、DZ、EA、EB、EC、ED、EE、EF、EG、EH、EI、EJ、EK、EL、EM、EN、EO、EP、EQ、ER、ES、ET、EU、EV、EW、EX、EY、EZ、FA、FB、FC、FD、FE、FF、FG、FH、FI、FJ、FK、FL、FM、FN、FO、FP、FQ、FR、FS、FT、FU、FV、FW、FX、FY、FZ、GA、GB、GC、GD、GE、GF、GG、GH、GI、GJ、GK、GL、GM、GN、GO、GP、GQ、GR、GS、GT、GU、GV、GW、GX、GY、GZ、HA、HB、HC、HD、HE、HF、HG、HH、HI、HJ、HK、HL、HM、HN、HO、HP、HQ、HR、HS、HT、HU、HV、HW、HX、HY、HZ、IA、IB、IC、ID、IE、IF、IG、IH、II、IJ、IK、IL、IM、IN、IO、IP、IQ、IR、IS、IT、IU、IV、IW、IX、IY、IZ、JA、JB、JC、JD、JE、JF、JG、JH、JI、JJ、JK、JL、JM、JN、JO、JP、JQ、JR、JS、JT、JU、JV、JW、JX、JY、JZ、KA、KB、KC、KD、KE、KF、KG、KH、KI、KJ、KK、KL、KM、KN、KO、KP、KQ、KR、KS、KT、KU、KV、KW、KX、KY、KZ、LA、LB、LC、LD、LE、LF、LG、LH、LI、LJ、LK、LL、LM、LN、LO、LP、LQ、LR、LS、LT、LU、LV、LW、LX、LY、LZ、MA、MB、MC、MD、ME、MF、MG、MH、MI、MJ、MK、ML、MM、MN、MO、MP、MQ、MR、MS、MT、MU、MV、MW、MX、MY、MZ、NA、NB、NC、ND、NE、NF、NG、NH、NI、NJ、NK、NL、NM、NN、NO、NP、NQ、NR、NS、NT、NU、NV、NW、NX、NY、NZ、OA、OB、OC、OD、OE、OF、OG、OH、OI、OJ、OK、OL、OM、ON、OO、OP、OQ、OR、OS、OT、OU、OV、OW、OX、OY、OZ、PA、PB、PC、PD、PE、PF、PG、PH、PI、PJ、PK、PL、PM、PN、PO、PP、PQ、PR、PS、PT、PU、PV、PW、PX、PY、PZ、QA、QB、QC、QD、QE、QF、QG、QH、QI、QJ、QK、QL、QM、QN、QO、QP、QQ、QR、QS、QT、QU、QV、QW、QX、QY、QZ、RA、RB、RC、RD、RE、RF、RG、RH、RI、RJ、RK、RL、RM、RN、RO、RP、RQ、RR、RS、RT、RU、RV、RW、RX、RY、RZ、SA、SB、SC、SD、SE、SF、SG、SH、SI、SJ、SK、SL、SM、SN、SO、SP、SQ、SR、SS、ST、SU、SV、SW、SX、SY、SZ、TA、TB、TC、TD、TE、TF、TG、TH、TI、TJ、TK、TL、TM、TN、TO、TP、TQ、TR、TS、TT、TU、TV、TW、TX、TY、TZ、UA、UB、UC、UD、UE、UF、UG、UH、UI、UJ、UK、UL、UM、UN、UO、UP、UQ、UR、US、UT、UU、UV、UW、UX、UY、UZ、VA、VB、VC、VD、VE、VF、VG、VH、VI、VJ、VK、VL、VM、VN、VO、VP、VQ、VR、VS、VT、VU、VV、VW、VX、VY、VZ、WA、WB、WC、WD、WE、WF、WG、WH、WI、WJ、WK、WL、WM、WN、WO、WP、WQ、WR、WS、WT、WU、WV、WW、WX、WY、WZ、XA、XB、XC、XD、XE、XF、XG、XH、XI、XJ、XK、XL、XM、XN、XO、XP、XQ、XR、XS、XT、XU、XV、XW、XX、XY、XZ、YA、YB、YC、YD、YE、YF、YG、YH、YI、YJ、YK、YL、YM、YN、YO、YP、YQ、YR、YS、YT、YU、YV、YW、YX、YY、YZ、ZA、ZB、ZC、ZD、ZE、ZF、ZG、ZH、ZI、ZJ、ZK、ZL、ZM、ZN、ZO、ZP、ZQ、ZR、ZS、ZT、ZU、ZV、ZW、ZX、ZY、ZZ

鍾光山頂上ヨリ 白馬岳ヲ望ム



7/1日同シノCampヨリ出ル
喜多武田(別動隊)ハ鍾光山
頂上登セリ

3月24日

Tentヲ撤去シテ南俣小屋ニ下ル



コノ間 3月23日 赤松伊藤比企森本福井パーターハハヲ押出ヨリ
南松岳登攀



南松岳

不歸五峯



不歸五峯コノPeakハ伊藤比企森本福井パーターハハヲ押出ヨリ
南松岳登攀サレタリ



南松岳ニ取付赤松パーター

3月31日 南俣小屋ヲ下山

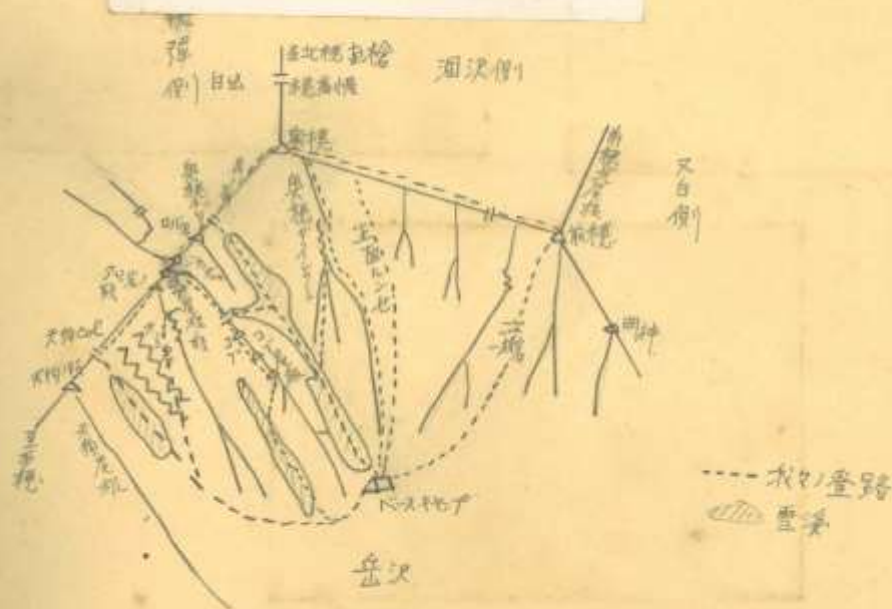
昭和12年夏 穂高生活

1 岳川側ヨリ、穂高登攀 (7月15日より7月21日)

同行 赤松 中村 伊藤 宇尾 鷺尾

岳川トマスリ = Base Camp ヲ置キ、約1週間 穂高連峯ヲ登攀ス

岳沢ヲ圍ム峯々



穂高岳沢側概念図

ジヤンガル山



ベースキャンプ附近ニテ



ジヤンガル山頂上ニテ



奥模利ジヤンニルヤセ尾根



中村
伊藤 警尾
伊藤 文 警尾

登攀日誌

7月17日 Camp 設置

18日 疊岩登攀 福田 伊藤

19日 奥模利タル外右端尾根 福田 伊藤

コブ尾根 赤松 宇尾

コブ尾根 中村 警尾

7月20日 〃 〃 福田 伊藤

正面ルンセ 赤松 宇尾

天狗 Col 中村 警尾

7月21日 上高地へ下山

Ⅱ 上高地キャンプ生活 (7月22日～23日)

身学科パートナー入山ニテ来ルヲ対テ 静養ヲカネニ日間愉快ナキャンプ生活ヲ送ル

サアタ食ハカレーライスト行クカ



飯ハ炊ケタカ



梓川ノ流レハチリカハル様ニ冷タイ
洗濯モ炊事モ同ジエノ原デヤレル



一日明神池ニ遊ブ
明神橋ヲ山々ヲ望ムカニ



Ⅲ 涸沢側ヨリ / 穂高連峯登攀 (7月24日～29日)

同行先輩 植田 奥山 島現 後赤松 中村 福田 伊藤 宇尾 齋尾
山崎 福井 小川 野田 北川 口府 津田 北金 武田

初心者 / トレーニング / 爲毎年恒例 / 涸沢合宿ヲ行フ 何シロ 多人數ヲ 合宿 / 事故小愉快ナル 事コエナシ

我等がベースキャンプ



趣ノ一時



ロバノ耳ノ下降



夜ノ天幕



カ77 5日間 北穂飛弾尾根, ジャタルム, 前穂北尾根等ノ
登攀ヲ爲シ ビギナル・レーニグナル目的ヲ充分達成シ愉快
ナル合宿生活ニ終ヲ告グ"

Ⅳ 又白側ヨリノ穂高登攀及ジャンタルム飛潭尾根偵察

8月1日～6日 福田 伊藤文

・ 涸沢合宿終了後伊藤と2人残留シ又白側ヨリノ穂高登攀及積雪期
登攀ヘツケジャンタルム飛潭尾根ノ偵察ヲ爲サントス

穂高ノ又白側

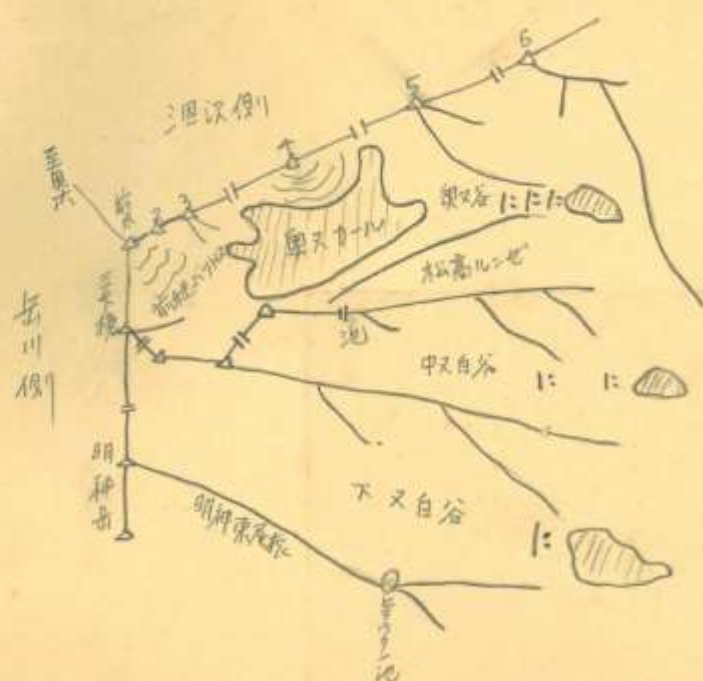


下又白沢

中又白沢

上又白沢

樽高又白側概念図



登攀日誌

8月1日 滝沢小屋入り

2日 中又白谷登攀 中又白谷ハ滝ノ連続アリ 非常ニ愉快ナ Sound Road!

Rock Climbing カ樂シイ

3日 下又白谷登攀 大ナ滝ニハマル 登ルヲ得ス 途中リ 引返ス

4日 滝沢ヨリ滝沢岩小屋泊リ

5日 ジャングルニ飛降尾根偵察! 積雪期登攀! 準備ニテ登路

1研究ヲ爲シ 完全ナル地圖ヲ一葉作製ス

6日 下山

昭和13年春鹿島槍生活

昭和13年3月19日～29日 隊員中村赤松福田伊藤繁尾宇尾福井

眞口探険隊が北極及エーレスト遠征等ニ採用シテ極地法 (Polar method) ナル登攀方式ニハベースキャンがヨリ順次第1第2～キャンヲ設置シテ行キ最後ノキャンヨリ所謂攻撃隊員ニ選バレタ數名ガ登頂ヲ敢行シ他ノ隊員ハ之ノ突撃隊員ヲ援助スル所謂サポーターングハニテトシテ行動スレドモ新登攀方式ナリテ然レテ法ハ將來セバテ遠征等ニ於テ必ず採用セネバナラス方式ナリアルガエノ成功如何ハ裝備食料等ノ準備包裝運搬等ノ科學的處理及隊員ノ美シキ相互援助ニカルミアルテ居リ最モトモコノ方式カ如何ホド効果的ナリ且ヌエガ運用ニ際シ如何ナル歟ニ注意スベキヤヲ研究スル目的ヲ以テコノ極地法ニヨル鹿島槍ノ登攀ヲ目指シテベースキャンハ遠見小屋トシテ大遠見頭ニ第1キャンヲ天狗尾根 Dom = 第2キャンヲ設置シテ直接登頂ヲ敢行セントシタデアレ

遠見尾根ヨリ天狗尾根カネ里鹿島槍頂上ヲ望ム



其時鹿島ノ天狗尾根ハ延々ト延ビテ来ヌコノ我々が極地法ニヨル登攀ヲ目指シテ尾根ナデアレ

遠見小屋ヨリ大遠見第1キャンプへ荷物
運搬中ノ様子



第1キャンプ設置ノタメ20日ヨリ22日マデノ3日間
大々ハ荷物運搬ニ従事シテ
3日間ノ努力ガヤガテハ登頂ノ效果ニヨリテム
アイレルノアル

大遠見頭ニ張ラレタ第1キャンプ(アークタイプ天幕)

アークタイプ天幕設計図



重量35kg 収容能力6人



アークタイプ天幕ハヤハリ英口探検隊ガ北極ニエベレスト遠征ニ
使用シテ特ニ風圧強度ヲ考慮ニ入ルテ蒙古ノ馬ニ似タ天幕ナル
若モモエニ異似テ設計試作シテ使用シテ見タ然レバ支柱ニ使用
シテ材料(蒙古竹)ガ通切致行キタ。25日夜ノ猛吹雪ニ耐
風圧側ノ支柱蒙古竹ノ節間ガ3本モ折レテ天幕側ノ支柱
又テ行ツタ。然レテ中央ノ風圧ニ耐ヘル力ヲ最も厚シ
キ支柱(蒙古竹)ノ性質不良ニ原因ナリ。即チ蒙古竹ハ强度
ハ相当大ナルガ軟性ガ材ナリ。其程度Bend 不ト直ク折レ
シマフハ其節間ガ折れテ支柱材料ニ劣劣研究ノ余アリ。元ノ

大遠見第1キャンプヨリカクネ里バットレスヲ望ム



大遠見キャンプ地ニテ



福井 中村 宇尾 森松
伊藤 福田 鷲尾



大連見キヤンブ地ヨリ鹿島松ヲ望ム



我々ノ登攀目標ハ鹿島松ノ頂キ
ソハ尤大ナル天狗尾根トソテ男性
的ナル征服カネ里ハ外ニモヨリ形
成セラルル。ソレヲ美シキ面白
キ事ノ爲メハ我々ノ山ヲアコガレル
青年ノ生命ヲウハイサレタルナ
。今我々ハ敢テその頂ニ挑戦
セタル。ソレヲ我々ノ我々ハ数人ヨリ
成ル隊員ノ力強キ團結力トソテ
最新科学的登攀法極地法ニ
依リテ。今我々ノ隊員ハ開始セリ
。山ヲアコガレル純心無クナル青年達
ニ我々ハ希望ス。

遠見尾根 Camp 迄 311 俵立山 連峰 ハンマ 寫眞



1972 美大 眺望 / 地蔵寺 / 池ノ場 / Camp I
 加藤 文彦 1969

天狗屋根 Dom T = 設ケルタル前進キャンプ CII



3月23日 突撃隊員(Attacking member)及援助隊員(Supporting member)ノ雪崩ノ危険性ヲオカシテ決死的努力ニヨリ遂ニ前進camp CIIヲ建設ハ成ツタ。フニテ4人ノ突撃隊員ハコノCIIニ残存他ノ援助隊員ハ大直見CIニ引返セリ

2000'ノ高高度ニ設ケルタル前進キャンプハ我等ノ苦心ノ設計ニテ耐風圧カマボコ型天幕ヲアツタ4人ノヒツケルハ突撃隊員ノ門出ノ日ヲ待ツノノ雄々シキテキャンプ前ニ現レタル

2日間ニ渉ル猛吹雪ノホトト天幕ヲ埋メノツタ太陽ノ太陽ノアツカレノ日ノ光ヲ

Camp建設ノ翌24日朝ノ不幸ニシテ天候ハ悪化シ荒レテ猛吹雪ハ2000'ノ高高度ニ於ケル隊員ヲ可成ニモ攻撃セリ。4人ノ突撃隊員ハコノカマボコ型天幕ノフツタ3人ニシツツノ猛攻撃ヲ耐ヘシノダンシタコノ幸スベキ我等ノ設計ニテ天幕ハ遂ニビシモスル事ヲ隊員ヲ守リ通シテクレタノヲ天ハ我等ヲ見捨テズ2日間ニ渉ルモ猛威ヲ振ツタ吹雪モバツタト上ニ3月26日朝迄ハ美シキ日ノ光ヲ見タノ然シタカウコノ日直ニ攻撃ニ移ル事ハ積雪状況及雪崩ノ危険性ヲ見テ決シテ良策トハ云ヘタル故我々ハ明日登攀ニソテコノ日一日ヲ偵察ニ盡シ屋根筋ノ新雪ノ悪化レ且ヤ雪崩ノ落下シツクスヲ待ツ



3月27日登頂ノ日



6時50分 Dom 頂ニ達ス

7時20分 小屋岩下ニテザイルヲ
フツケル コノ頃ヨリ屋根スガ
ハヤセクニ変場ガ出テ来タ

3月27日 午前5時50分 4人ノ突撃
隊員(中村 赤松 伊藤 整尾)ハ前進チ
ヤブヲ登シ勇躍登頂ノ途ニツク



一歩々
頂ヘク 我等ノタマザル努力ハ
報ケザレル
ソレヲ我等ノ登リ来シル雪稜ヲ見ヨ 努カ
ノ結晶トモ云フヘキ 一帯ノ美シキスズル
ガ鮮カニ見ヘルデハナカ コレゴソムヘ
行ク者ニカ味ヒ得ル幸ヒナク

頂キ近シ



モウ一步ダ眼前鹿島北木倉/
頂が見えて其デハナイカ

シテ遂ニ=3月27日午前10時50分鹿島槍 頂上ニ達ス
入山ヨリ9日間ニ渉ル全隊員ノ努力ガムクイテシタ
ハ喜ビアルニ

其外附近到鹿島槍ヲ振り返リ見ル



登頂後直チニキレト
ヲ至テ下山ノ途ニツク

下山 / 途



ギレットヨリカクネ里 = 下

CII = 歸ル



3月28日 CII 撤集

3月29日 CI 撤集 全員遠見尾

根ヲ登テ下山

目的ハ達成セタ我等ノ皆カハ

ムヲイルタ 大ニ喜ビニ残シ

下山 / 途 = ツク

CIヲ撤集シテ下山 / 途 = ツク

8月ヨリ越ヘル石物ヲ持テ /
スキーハ相当ナシ



昭和13年春鹿島嶺東尾根登攀

昭和13年3月30日~4月3日 同行 森松 伊藤 犬

遠見尾根合宿終了後東尾根に鹿島嶺登攀を目標として森松 伊藤 犬 3人
にて鹿島嶺部落に入

大川出合に鹿島嶺東尾根を望む



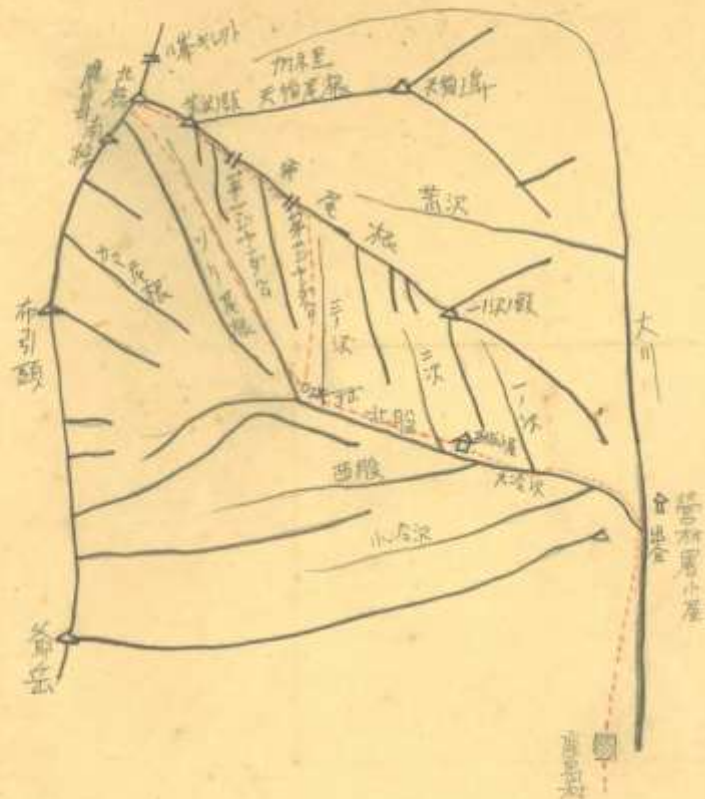
鹿島嶺東尾根に1933年4月田口先輩等により初登攀された

我々が7月には昨年5月及今年冬に2回登攀を目標としていたが
天候その他理由により失敗に終り今度ハ第3回目、攻撃
トす

3月30日 松本より鹿島村入り 鹿島村にて狎野白虎に泊る

3月31日 鹿島村ー西股小屋 西股小屋ハ北股西股の出合下、台地
ニ最近造られた小屋なり 勿論薪火不在、炊事全無
自分達の手で行う

鹿島嶺東尾根概念図



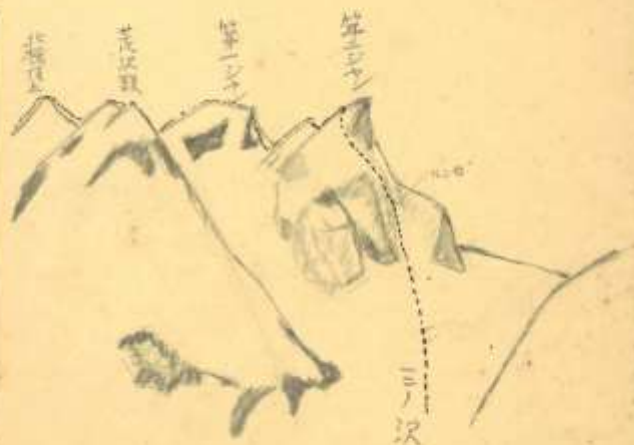
4月10日東尾根登攀

午前4時25分 小屋ヲ飛出ス
 スーパーストニ着テ雪ノ上ヲスキー
 滑リテ北尾根ハトル Lampノ光ガ森
 林帯ニ気味悪ク走ル 沢ハ氷河ノ如
 ク内凹シタル 北尾根ノ奥ハ200'ノ
 高差ヲ有シ現ニ北尾根ガ立テタル
 5.30 ニノ沢出合ニ達ス早速スキー
 ヲアセシニ一ノ沢カハスキーデボトス
 ニノ沢ヲ登ルニ從ヒ脊面ノ岩岳
 ガ^(朝ナ)モルゲンロトニ映テ全ク美ニイ
 雪ハ全ク良クニマリ アセシニ最良ノユネ
 ンショナル 700東尾根ニ達ス
 其処ハ第一ノジャンガ素晴ニク大塔
 状ニ突立テタルデハナク

三ノ沢第1,第2ジャンタルム



↑ 第1ジャン ↑ 第2ジャン



コノ第一ノジャン及第二ノジャンガ東尾根中ノ最大ノ
 尾根ヲ第1ジャンハ大塔ノ如ク第1ジャンハ円塔
 ノ如ク突立テタルデハナク

第2シヤンダル47望



中央ルセヨリ取付北股
側/雪面ヲ巻キテ頂ニ
達ス

北股側/急峻ナ雪面/登攀



猛烈ニマツ雪面ニカチトアセ
テ打込カ登ル様通シテワ次側
猛烈ナ雪底/急進行不能ナ北股
側/60度急壁ヲ巻キテ登攀ス
テ足ヲ固クシテカキ事

東尾根第1巻目/難関 200シヤンダル

3740mニシテ東切ルヤトモカモ玉面ニ入り
ニテルルセニ取付テ事ニスル。I.F.A. Order
テUnacilenニ登リ初ムルセリ丁度アセシノリ
テ入ル様度テ適當ニマツル One Pitchニテ
通サリスニ達ス一休ニ後急峻ナ雪面ヲ登リ
One step毎ニ Eisenヲカチテ打込マテハナ
シアルカ全クイテナル北股側リマキ
テカク進ムアリテ側面ニ雪底カ出テ
ストト落テ込ニテハ1000第2シヤン頂ニ
達ス 20"バカリ下ノワ所ニ問題ノ第1
シヤンダルカ東尾根ヲサキヲテナル
ハナカ

尾根通シニ出ル



アリテ側/雪底ニテ事ニカチテ
雪底ニテアリテ急壁ニ落込
テ様ニセハナリス

第1シヤンダルム山



第1シヤンダルム 荒沢側「イッパ」
/スケッチ



白く東尾根最大ノ難関トモエヘキ 第1シヤンダルムノ登攀ヲ 概知セル
 丁約30分ユツリト ルト觀察ニ費スル 田口一部先聲ガ5月ニ登ルタルセ
 カ輕クサダガノヲ登ルニハツシスヲ下ラネハナラヌノデヤハリ 田口一部先聲
 ガ四月ニ登ルヲ一者右側ノ荒沢側ノ Ridge = Routeヲ取ルコトニスル
 10時半攻撃開始 先ヅ伊藤ト松トヲ登リ初ム A点ヨリ取付ク雪杖
 ハ荒沢側ノ雪底ニ随分心配シタ B点ノColニ一庫3人集ル ソノリ伊藤
 更ニ進ム C点ヨリD点ニ トラバースセントスルモ 何シロ岩ノ上ニ氷ガ薄クツキ
 テキルエヲ一々割ラネバナラヌソノ上ニ出テ来タ岩ガ逆層デツル
 滑リテ仲々ガチカ出ナイ バニテ伊藤ノ壁タニ一歩デモ安定ヲ失ヘバ大變
 ナ事ニナル C点ニ引返シテ赤松ト交代スル 伊藤ハC点ニテ雪面ニPickel
 ヲ打ツニヒレヌル小井ハB点ニテ肩ヲ利用シテガノリヒレヌル 赤松ハコノ2人
 ノヒレニ全テヲ託シテ慎重ニ壁ヲ登ヘトトラバースニテ行ツタ 伊藤ハ
 ツマ先タツム イッパヲテヒカ 彼ハトラバースヲ終ヘD点ニ達ス D点ヨリ少
 シナツマツリノ狀ノ所ニ取付ク Overhang 氣味デ 非ニ思ヘ One pitch ヲ

若シ北沢一歩アマレバ 伊蔵及小生=対シ赤松/ Slipハ 非常ナ 御苦労
 若重シテ働カ果シタルガ 支ヘ得ルヤ否ヤ トカク 赤松ハ 是ヒ切ツテ ヨリ
 Overhang / 悪場ヲ乗越スコノ面ヲ乗越レ 覆校ニ出タリハ 昨然 感シガ良イ
 全員ガ コノ第1ジヤン1頂ニ達シタハ 丁度 12.00時デアツタ ヲリヨリ 約 1時間
 平坦ナ雪稜ヲ登攀 午後1時20分差=頂ニ達ス! 3人1キハ 期セズニ集リ至ニ
 固イ握手ガ カハサレタ コレガ我々ノ 長イ間ノ 望ガ オヘタタ

辰島北槍頂上ニテ



北股上部ガ 日蔭ニ カルヲ 登下 山ノ 途ニ ツキ 沢ニ 入ル 傾斜ガ 比較的
 エルヲ ナリテ スライディング グリセードヲ 試シル 滑ル事< 登リニハ アナニ
 苦勞シタ 200mノ 高差ヲ 僅カ一時間デ 下リタ 又 2時30分 三ノ沢
 スキーボ=道ス ヲリ スキニハ キハ film Gootノ 快道ナ スキーヲ 乗ノシ
 午後 3.00時 西股小屋 歸着



夜ハ快通ニハダ 東尾根登攀ヲ祝ヒテ ソーセーザ等ニ一ト
 スーラデ 焚キカウ茶ヲ飲ムヲ バイカニガ聞ケルニ 我ミダケ
 / ヒユラレーベン / 夜ハ更ケキキキ 何時マデモ 真暗ニ 鹿島ノ谷ニ抱
 カレテ山ノ静ハ 盡キナイ 樂シカリシ 6年間ノ山行ノコト 將來ノ進ミ方我々
 山ニ行者ニハ 山ニ行クモノハ 惱ミガアル "星ノ光ノモハ 岩屋 自然ヲ
 己ガ提テニサニテ サマヨウ我等ガ 伊ノヒトネ" アノ山ノ夜ハ更ケル

4月2日 西股小屋 - 鹿島部落

雨ヒ 訪レル事カナヘアウ 鹿島ノ村ガナニ ナリカニナリ
 行野日庵ニ一泊ル事ス

4月3日 鹿島部落 - 大所 - 松平

昭和13年夏 穂高洞沢合宿

阪神間ヲ襲来シタ大嵐水害ノ後 穂高洞沢ニ合宿スル
初心者ノ北ニシテカ目標ニテ ノキト2人ヲ指導ニ付
約1週間ノ合宿生活ニテ 前穂、シヤン、北穂等ノ登
攀ヲ爲ス



場所 伊能 小生 北川 津田

北穂ニテ



前穂積トニテ



ジヤン頂上ニテ



私生活 / 成り非常 = 有意義 + 事ヲ 敬ヘテ

陸軍スキー会 宿舎 黒岩 =



昭和14年1月 志賀高原スキー行

スキー会員1減ヲ代スヘク 俊成兄ト志賀高原ニ遊ブ 丸池
発痛等ニ快癒ナリト滑ス

昭和19年2月神鍋山スキー行

諏訪休日利用で神鍋山へ遊び

一同勢ゾロイセル所



右より 村上 健 小島 孝雄 河田 清 沢田 幸三



長谷山 中程、クリスチヤニヤ

北川 中程 北川ツミフタローザカ更北山



多人数の百姓スキー



スキーの練習風景
スキーの練習風景

スキーの練習風景



利シ仙台ヨリ上京西村ヲサノイ残雪ノ上高地ヘ向フ

岳沢展望



大正池ニ于



岳ノ入道若ヲ望ム



新緑ト岳ノ残雪ノコントラストがマバユイ位ニ美ニイ
 夕時東ノ上高地ハ美ニイ所ナ

岳ノ入道ノ南ヲ望ム



ガスガ正ニ岳ヲオ・イカクサントシテハ



上高地ホテルニテ



大滝山ヨリ穂高見物ヲ爲スベク上高地ヲ発ス

穂高谷ノ林道ニテ



穂高ヨリノル 沢通シハ冷シヤリシテ
トモモ涼シイ谷川ノ水ノ素直ニウマイコト



大滝山ニ向テ尾根筋
ニ取り付ク

長嶺山ヲ望ム

モウサザ大滝山頂上ト云フ所
ニ残雪激シカクハ尾根ノ傾斜
數シナリニ爲シ残念ナガリ引カス



徳沢小庄利穂高連峯望ム



岳ハ夕暮ニカスンデオテフ
出小屋ノ夜ハ静ニ暮レノスル



翌日梓川畔ヨリ残雪未ダトケテラザル初夏ノ穂高
連峯ノ見物ヲ爲ス

興又、中又白谷ヲ望ム



前穂北尾根又白イリ
尾根筋ノ残雪ハ朝日ニ照ル
トモ晴ヤカナ景ヲ成セテ
ル



前峯ノハツリス、四峯ノ壁が見へル、過ケル年、幾シArbut
ノ後、新ク完登シ、峯々ガ初カニ元来ノ目ニ映ルヲハタイカ



下又自谷ヲ望ム、十年前ノ冬、昔シキ登攀ヲ爲シ、明神尾根カ見へ
ル、コノ根高ノ峯々ヲ望ム、私ノ體ヲハ、週ギン、高校時代ノアノ幾シArbut
ノ海カ走馬燈ノ様ニ走ル



雪川次明神最南峯



1 才別レトナツ。昭和7年夏、櫻高行以來コノ北アルプスハ和ニ
忘レ得サル數々、思出ヨクハテクレタ。苦シカニ歳々、毎ハ、闘争樂シ
カリ夏心々、今ハ全テ樂シキ思出トナツタソレテコノ北アルプスハ青
年時代、私ニ多クモ、教ヘ且、反ハテクレタ、タ、タ、サヨウナラ
北アルプスヨシカニ幸アラシキ事ヲ祈ル